



AUE News



2011年11月1日

第 27 号

編集・発行
愛知教育大学広報部会
TEL 0566-26-2738
FAX 0566-26-2500

目 次

- 省エネニュース@愛教大
- 行事予定(11月1-15日)
- トピックス
 - ・附属幼稚園児が実習園で芋掘り
 - ・彫刻展
 - ・江南高校、島田高校、豊田西高校が本学見学
 - ・陸上部・中野弘幸さんを学長表彰
 - ・キャリア支援講演会
 - ・学生ボランティアが街頭キャンペーン
 - ・白洲正子主義展
 - ・実習園で学生が稲刈り
 - ・第3回アカデミックカフェ
- ・東海地区国立大学文化祭に参加
- ・保護者懇談会
- ・本学および静岡大学による共同教科開発学専攻設置に認可
- ・パリス校児童が本学訪問
- お知らせ・報告・投稿
 - ・ハノイ大学でのアジア教育ネットワーク会議に松田学長ら参加
 - ・経済誌で本学が上位にランキング
 - ・「エコ大学ランキング」に本学が上位ランクイン
 - ・催しもの案内

省エネニュース@愛教大

2011年度愛知教育大学緊急節電対策の啓発活動として、「AUE News」で省エネに関するニュースをお知らせします。今回はNo.8(作成は「省エネワーキンググループ」)です。皆さん、引き続き、節電にご協力ください。

NO9 給水設備で省エネ！



給水設備(受水槽)
受水槽容量126t！



給水設備(給水ポンプ)
台数制御・インバータ制御！

給水使用量に応じて、ポンプの回転数や稼働台数
が変わるシステムです！

給水設備「省エネ」のポイント

- ①水を使うことは「電気」も使用することになります。使いすぎはNGです！
- ②2011年度までに大学構内の給水設備を統合・高効率化し、約26万kWh/年(理論値)削減しました。(全体電力使用量に対して約5%削減したことになります！)
- ③給水設備(受水槽)の統合は、残留塩素保持の点からも衛生的です。



行事予定(11/1-15)

- 1 日(火) 役員部局長会議 (13:00～ 学長室)
- 2 日(水) 教務企画委員会 (13:30～ 第二会議室)
学生支援委員会 (13:30～ 第五会議室)
- 8 日(火) 役員会 (13:00～ 学長室)
- 9 日(水) 教育創造開発機構委員会 (9:30～ 大学会館中会議室)
代議員会 (13:30～ 第五会議室)
教育研究評議会 (代議員会終了後 第五会議室)
- 15 日(火) 役員部局長会議 (13:00～ 学長室)

トピックス

附属幼稚園児が実習園で芋掘り(10/17)



附属名古屋幼稚園の園児たちが、10月17日(月)、本学の実習園を訪れ、恒例の芋掘りを行った。

午前10時半に園児たちはバスで到着し、実習園へ。この日参加したのは年中(4歳)の園児66人と教員ら。園児たちが芋を掘りやすいようにと、職員があらかじめ畑に伸びた芋の蔓を取り払い準備は万端。子どもたちは、早速、畑に入って土を掘り始め、大きく実ったサツマイモを次々に収穫した。自分たちの顔ほどの大きな芋を掘り出して歓

声を上げたり、中には、土の中の虫やトカゲを発見して大喜びする姿もあり、終始にぎやかだった。

今年は9月も暖かく天候に恵まれたため芋の生育状態も収穫量も上々で、子どもたちも大満足。収穫した芋は用意した袋に1人約2kgずつに詰められて、それぞれ自宅に持ち帰ったほか、幼稚園で蒸かし芋にしておやつに食べられる予定。

芋掘りの後、園児たちは実習棟前でお弁当を食べて、笑顔で実習園を後にした。



彫刻展(10/18)

本学の彫刻研究室の在学生・卒業生による展覧会「第30回彫刻展」が10月18日(火)～23日(日)、豊田市美術館で開催された。



同研究室では先輩・後輩の交流を行いながら日々の制作に励んでおり、30年以上前から(途中休止があったが)、この展覧会を続けている。今回は学部1年生から卒業生、指導教官まで39人が参加し、39作品が出品された。

これまで回ごとに決められたコンセプトを今回はあえて設けずに、各自が自分の作りたいものに挑んだ。人物や動物、卵やゴーヤをテーマにした作品も。素材も木材、金属、ガラス、粘土など様々で、中にはつまようじを使った作品があるなど、自由な発想の個性あふれる創造的な作品が並んだ。

1年生の今井美江さんと横井亜美さんは「彫刻をやってみたかったので、まずは経験、とチャレンジしました。いつも側にいる先輩の作品



が、その人らしかったり、意外な作品があったりと面白かったので、来年も参加したいです」と、初挑戦の感想を笑顔で話した。

江南高校、島田高校、豊田西高校が本学見学(10/19,21,25)

10 月後半は、愛知県立江南高校、静岡県立島田高校、愛知県立豊田西高校からと、本学見学が相次いだ。



19 日(水) 午前には江南高校 PTA と教員計 87 人が訪れた。バス 2 台で到着すると、本部棟前で記念撮影。第二共通棟 422 教室で、大学の概要や入試について総務課・繁野哲係長が説明。「敷地の広さはナゴヤドーム 10 個分」の説明に驚きの声が上がリ、「大学には馬がいるんです」と乗馬部の厩舎を紹介した写真には思わず笑い声も。続く施設見学では、附属図書館があいにくの休館日だったが、体育館や創造科学棟、自然科学棟、生協などを秘書広報課職員の案内で見て回り、「様々な施設があるのが分かった」などと、好評だった。

＊



21 日(金) は島田高校の 2 年生 44 人が来訪。東名高速の集中工事による渋滞のため、予定時刻より 1 時間 30 分遅れて、正午過ぎに到着。第一共通棟 105 教室に移動し、早速、外国語教育の小泉直教授による模擬授業を受けた。長いバス移動後すぐの授業となったが、熱心にメモをとる生徒もいて、真剣さが伺えた。

昼食は学食を利用。セルフサービスの食堂で、それぞれ好きなメニューを注文。「今日の楽しみの一つが学食」と笑顔で話す生徒も。午後は第一共通棟 311 教室に移って、大学概要や入試についての説明に耳を傾けた。



当初の予定よりも慌ただしい日程となったが、最後は生徒全員で元気よく「今日はありがとうございました」と案内した職員に挨拶。午後 2 時 30 分にバスに乗り込み、無事に帰路に着いた。

＊

25 日(火) 午後 2 時 30 分ごろ、愛知県立豊田西高校 PTA と教員計 114 人がバス 3 台で来訪。第二共通棟 411 教室を会場に、大学概要、入試、就職状況について総務課、入試課、キャリア支援課の各職員が説明。その後、3 グループに分かれて、附属図書館や体育館など学内の施設を秘書広報課の職員が案内。保護者からは「寮に入っている学生、下宿している学生はどのぐらいいますか」「土日にも大学を見学できますか」など質問があり、精力的に施設を見学。「自然が豊か」「勉強するのにいい環境ですね」「キャンパスがきれい」などと感想を口にして、バスに乗り込み、午後 4 時 30 分に本学を後にした。

陸上部・中野弘幸さんを学長表彰(10/19)

陸上競技で今季、めざましい活躍をした中野弘幸さん(保健体育専攻・院 1 年)をたたえる学長表彰が 10 月 19 日(水) 午後 1 時から、学長室で行われた。



中野さんへの同表彰は、6 月の日本陸上競技選手権大会男子 400m4 位入賞に対してに続いて 2 回目。その後、8 月に中国でのユニバーシアード競技大会男子 400mリレーで銀メダル、9 月に熊本での日本学生対抗選手権(日本インカレ)男子 400m 個人優勝、10 月に山口での国体男子 400m 個人優勝。インカレ優勝は本学としては 10 数年ぶり、男子で初、国体では社会人

を抑えての快挙とあって、本学の名誉を著しく高めたとして、今回の表彰となった。中野さんは松田正久学長から「おめでとう」の言葉と共に表彰状と金一封を手渡されると、一礼して笑顔で



受け取った。

その後、陸上部顧問の筒井清次郎教授（保健体育教育）、同コーチの木越清信講師（同）、本学理事らと歓談。松田学長から勝因を問われた中野さんは「先生方のポイントを押さえた指導のおかげ」と、前半でペースを上げてはなお、後半でも走れる持久力を高めたことが良かったと説明した。そして、次

の照準にしている来年のロンドン五輪出場に話しが及ぶと、「五輪標準タイムをクリアし、日本選手権3位以内なら出場できそう。頑張ります」と健闘を誓い、松田学長も「マイペースの練習で、本学としては3人目のオリンピック出場となるよう、頑張ってください」と激励した。



キャリア支援講演会(10/19)

学生たちの就職支援のための「キャリア支援講演会」が10月19日（水）午後1時30分から第二共通棟431教室で開催された。



講師は、航空業界専門校インターナショナル・エア・アカデミー学院長の永江静加さん。ANAスチュワーデスを経て、航空業界へ多くの人材を送り出している学院長としての経験から、「将来へのキャリアデザインとは～学生生活の送り方で変わる」のテーマで講演した。この日は2年生120人が参加。また、職員のSDの機会でもあり、職員有志も聴講した。

永江さんは自己紹介の後、「印象は0.4秒で決まります。どうしたら好印象になるのでしょうか」と問いかけた。と、その時、肩肘をついて話を聴く学生を目にして一喝。「今から心のスイッチをOnしてください!」と、テーブルに荷物を置かない、背筋を伸ばして背中肩胛骨を合わせる、などと注意された学生たちは表情が一変し、会場は緊張した空気に包まれた。さらに、「脚の仕草がその人の知性を表します」と足先の美しい置き方をアドバイス。姿勢を正した学生たちに「皆さん、とてもきれいです。これが当たり前話を聴く姿勢です」と講演は先へ。隣合った2人一組でお辞儀の仕方の練習、「ウイスキー」の発声で美しい笑顔をつくる練習、言葉遣いや立ち居振る舞いの練習など、好印象を与えるためのアドバイスがなされ、参加者も真剣に取り組んだ。



体を使ったトレーニングの後は、「企業が求める人“財”」についてのレクチャー。社会に求められる六つのキーワードとして「やる気・情熱・（心の）健康・明るさ・ファイト・パワフル」と、それぞれの大切さを説明。また、テレビドラマで見たスチュワーデスになる夢に周囲の無理解の中で挑んだ自身の体験を例に、「夢は叶えられるもの。大切なのは夢を持つこと」「成功者がすごいのは、“あきらめないこと”」などと熱く語った。

講演は予定時間を30分ほど延長し、約2時間に及んだ。永江さんは「皆さんの人生が素晴らしく、明るいものであることを願っています」と締めくくり、会場から大きな拍手が送られ。



学生ボランティアが街頭キャンペーン(10/19)

10月11日（火）～20日（木）は「秋の安全なまちづくり県民運動」期間であり、刈谷署から

活動の一環として市民の防犯意識を高める目的で、住宅を対象とした侵入犯罪に関する啓発活動のためのチラシ配布を本学学生にしてほしいとの依頼があった。これを受け、子どもまつり実行委員会の学生 13 人がボランティアとして、10 月 19 日（水）午後 4 時からスーパーのピアゴ井ヶ谷店で来店者に対して注意を呼びかける啓発チラシ等を配布する活動を実施した。



当日は、刈谷警察署の署長、生活安全課の署員及び刈谷市役所の職員 2 人、井ヶ谷地区の地域住民で安全パトロール隊員 6 人の方が参加した。市役所職員は、「井ヶ谷地区を含めた

刈谷市内では、最近、特に独り暮らしの女性の住居（アパート等の 1 階）を狙い侵入盗が多発しているの、地域住民の皆さんに注意喚起をしたい」と話し、警察署員からは、「愛教大の学生さんにも今後、地域一体となった安全なまちづくりへの参加、ご協力をぜひ、お願いしたい」旨の話があった。

また、買物に来店した親子連れの子どもの小さな子どもたちには、愛知県警マスコットキャラクターであるフクロウのコンパニオンや学生が子どもまつりにて使用している可愛らしいトラ・イヌ・ネコ三体の着ぐるみが迎え、周りの雰囲気を和ませた。



（学生支援課 亀山重人）

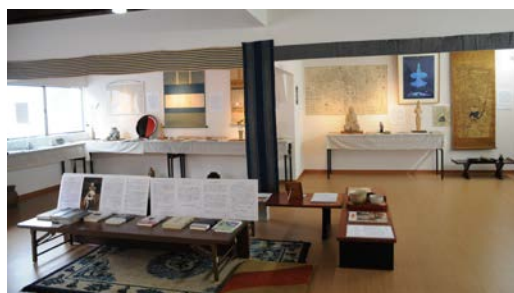
白洲正子主義展(10/20-25)



刈谷駅前商店街と本学の連携事業、UNO セレクション第 6 弾「白洲正子主義展」が同商店街のギャラリー、スペース Aqua で 10 月 20 日（木）～25 日（火）に開催された。

今回は、本学 0B で陶芸家の古橋尚さん（1976 年卒業、名古屋市在住）が、文筆家の白洲正子に関わるコレクションを公開した。貴重な自筆の手紙や原稿をはじめ、出版書籍、白洲流骨董など、約 100 点を展示した。

「白洲正子を追体験してみよう」と集めたという骨董品は、古くは中国・漢の時代の陶器から、魯山人作の焼き物など、白洲正子の趣味の品々。そこに季節の花々が添えられ、白洲正子の世界が再現されている。正子と、戦後日本の歴史で重要人物とされる夫の白洲次郎についての紹介もあり、写真パネルや 2 人について書かれた本のなどで白洲夫妻の生涯を紹介するコーナーも見どころの一つ。古橋さんは「白洲正子“主義”を分かってもらうための展覧会ですから」と、来場者を迎え、丁寧に解説もしていた。



22 日（土）午後 1 時から、特別対談「ソアラの縁」と題して、元トヨタ自動車ソアラ開発者の岡田稔弘さんを招いての催しが行われ、会場は 40 人余で満員に。岡田さんは「初代ソアラ



に文句をいうおじさんの話を聴いてこいと豊田章一郎さんに言われて尋ねたのが、白洲次郎氏でした」と白洲次郎との出会いを振り返った。以来、車やゴルフの話題で夫妻と親交が深まったという。「次郎さんは、ソアラのバッテリーが小さい、ハンドルの握りが大きすぎるなど、指摘内容が鋭かった」「正子さんは、いつもファッショナブルないでたちで、ダンナを頼りにしない人（笑）。そういうところが、今の女性にうけるのでは」などと、白洲夫妻とのエピソードなどを披露し、来場者を沸かせた。

実習園で学生が稲刈り(10/20)



実りの秋を迎え、実習園では技術教育の学生による稲刈りが10月20日(木)午前、行われた。

秋晴れのこの日、技術教育専攻の1年生約10人が揃いのつなぎと長靴で参加。学生たちは、5月に種まきをして苗を育て、6月半ばに2区画分約800平方メートルの田んぼに田植え、その後、アイガモ約20羽を田んぼに放して雑草などを食べさせて、農薬使用をできるだけ控える「アイガモ農法」に挑戦。ほとんどの学生が稲刈りが初めての体験と

あって、太田弘一教授(技術教育)や実習園を管理する長友武志さんから、鎌やコンバインの操作の指導を受けながら、たわわに実って黄金色に頭を垂れた稲を前に奮闘が始まった。

初めてのコンバインでの稲刈りに学生は「真っ直ぐに進ませたり、次の列に方向転換させたりするのに、機械が重くて難しかった」と汗をぬぐった。それでも次第に慣れて、長友さんらに褒められて、笑顔に。女子学生も「農業機械を使えば、簡単に稲刈りができることが分かりました」と、約半年かけて育てた苦労が収穫の喜びに変わったのを実感した様子だった。

米の出来を「今年はおもがよく働いてくれたんで、よい米が収穫できたよ」と長友さん。この日刈った稲は「はざ掛け」して乾燥させ、脱穀し、関連授業で食べたり、学内等で販売する予定。稲わらは堆肥の中に混ぜたり、土わらにする畑を保温するために撒いたり、一部を馬術部が飼育している馬のえさにも利用する予定。



第3回アカデミックカフェを開催(10/23)

本学教員による公開講演会「第3回アカデミックカフェ」が10月20日(木)、第五会議室で開催された。今回の講師は中島晴美教授(美術教育)で、「やきものの造形」をテーマに、自身の作品だけでなく、他の著名な作家や指導してきた本学の大学院生、卒業生らが制作した数多くの作品の写真をプロジェクターで紹介しながら90分熱弁を振るった。学生や教職員や市民を含めて約90人が熱心に聞き入り、造形美の世界を堪能した。



午後5時半の開会に先立ち松田正久学長が「お集まりいただきありがとうございます。中島さんは現在もパリで作品展を開催するなど造形作家として活躍していますが、彼と話していると、いつもいい刺激を受けます。皆さんも秋の日のこの時間を十分楽しんでください」とあいさつ。



中島教授は、欧米で日本の工芸の人气が高く、知り合ったサッカーの元日本代表、中田英寿さんが海外で日本文化について聞かれ、答えに窮したため日本の工芸の勉強を始めたエピソードを話した後、教授が影響を受けた作家の「技術は誰でもできる。自分の心の中を覗くのが最も難しい」「土の声を聞きなさい」「芸術は救いでなければならない」などの言葉を紹介。また「彫刻はバランス、美しさ、存在感がある。

やきものは正面性があり、触覚的で触ってみたいくなり、エロティックで、私にとっては自分の内面を引きずり出されるものです。やきものは有機的で、成長し、増殖し、変容していくもの」とやきものの真髄に触れた。作品紹介では、教授が見て「魂を揺さぶられた」作品、自身の作品の変遷に加えて、学生の力作を一つひとつ解説。出席した学生との対話を楽しみながら、ユニークで、鋭い感性を感じさせる作品群が映し出されると、参加者

は目を奪われていた。

最後に松田学長が「楽しんでいただけたと思います。個人的には中島さんに芸術家としての教育との関わりを聞きたがったが、またの機会にします。アカデミックカフェはこれからも続けていきますので、よろしくお願いします」と会を締めくくった。



東海地区国立大学文化祭に参加(10/22,23)

10月22日(土)、23日(日)、豊橋技術科学大学が当番校となった大学生の「第56回東海地区国立大学文化祭」がライブポートとよはし(豊橋市神野ふ頭町)で開催された。東海地区の愛知教育、三重、静岡、名古屋、岐阜、浜松医科、名古屋工業、豊橋技術科学の8大学が演劇部門(演劇・落語・奇術)、美術部門(絵画・写真・手芸)、音楽部門(バンド・合唱・合奏)の3部門にそれぞれ参加した。



本学は、音楽部門で軽音楽部とフォークソング部のバンドと男声合唱団と混声合唱団とアカペラサークルの合唱の計5団体が参加し、日ごろの練習の成果を精一杯に発揮し、見事にやり遂げた。他大学では、毎年参加しているプロ並みの演奏をしている団体や初々しい演奏をしている団体も参加していた。また、今回本学が参加できなかった演劇部門や美術部門では他大学がすばらしい作品や豊かな表現力を発揮して、一般の来館者に感銘を与えていた。

来年度は、本学が当番校であるため、音楽部門で活躍したフォークソング部のメンバーであるボーカリスト、4年生の松宮未佳さんが演奏終了直後に「来年は愛知教育大学が当番で行います。軽音楽さんと連携して楽しい文化祭にしたいと思います」と来場者に挨拶をし、最後まで雰囲気盛り上げていた。

(学生支援課 亀山重人)



保護者懇談会(10/23)



大学が続けていたが、開会時には晴れ上がり、汗ばむほどの陽気に。この日参加した保護者は約440人。学長、役員の説明に熱心に耳を傾け、個別面談では教員に率直な質問をぶつけ、学内の施設をゆっくりと見学する姿もみられた。

第1部は午後1時、講堂で開会。濱田泰栄総務課長が司会を務



め、まず、松田正久学長が「本学は教員の就職率はトップクラスで、教養が身につく大学としても高い評価をいただいています。学生には本学で学んでよかったと思って卒業していただきたい。また、地域から信頼される大学を目指して外国人学習支援、科学ものづくり教育などを進めており、刈谷、知立、安城の各市とは包括協定を結んで連携しています。緑が多く、環境重視型エコキャンパスづくりの先進的なモデルの大学をつくっていききたい。大学運営は厳しいが、ご理解とご



協力をお願いします」とあいさつ。

役員部局長の紹介に続いて、岩崎公弥理事が単位や成績評価、授業、教育実習や学生の不正行為への処分など教育全般に関することを解説。都築繁幸理事は寮の新築、奨学金制度や学生の就職状況、本学の就職支援、教員採用試験対策などを説明した。職員から第2部の個別相談について案内があり、1部は終了。保護者は第2部の個別面談会場へ向かった。個別面談は各選修、専攻、コース、大学院ごとの会場に分かれて、それぞれの教員が担当し、1人10分間程度、保護者の疑問に答えた。「お子さんはまじめに勉強していますよ」との教員の言葉に安心した表情を浮かべる母親も。面談の待ち時間を利用した人や面談をしない保護者数十人が附属図書館や天文台などの施設を見学し「学内は緑が多く、素晴らしい環境。子どもがうらやましいです」と話す保護者もいた。講堂ロビーでは教務、学生支援、キャリア支援の各課職員が待機し、計20件の相談に応じた。



名古屋会場は会場の都合で個別面談の代わりにグループ相談が行われた。2回の懇談会では計670人の保護者が来場、学生の大学生活ぶりを見聞し、大学への理解を深めた様子だった。会場で実施したアンケートでも「教授の話が聞けてよかった」「大学との関係を強化したいと思った」「来年も開催してほしい」などの意見が目立ち、概ね好評だった。

本学および静岡大学による共同教科開発学専攻設置に認可(10/25)

国立大学法人愛知教育大学と国立大学法人静岡大学が博士後期課程のみの共同教科開発学専攻設置に向けての協定書を締結したちょうど半年後にあたる2011年10月25日(火)、文部科学省からの設置認可を受け、両大学長による喜びの会見が両大学の間接地点である浜松市内で行われた。

松田正久学長から、「わが国の国立法人同士での共同博士課程設置はこれが初めてであり、教員養成系での共同博士課程設置もこれが初めてであり、大変嬉しく思っている。中央教育審議会等で修士レベル化について検討されており、国立の教員養成系大学の使命として、教員養成のアップグレードに取り組みたい。チャレンジする気持ちで頑張りたい」と2012年4月開設に向けて意気込みが語られると、静岡大学の伊東幸宏学長も、「産業構造や社会構造も変化してきている今日、重要なのは人材。現場教員を教える大学教員を育て、地域の教員の養成により一層貢献したい」と抱負を述べた。



教育を取り巻く社会状況や学校教育が抱える課題は複雑化し、学校教育現場の教員に高い資質能力が求められていく一方で、教員養成カリキュラムの目的性や科目の体系性の欠如等の課題が浮き彫りになってきている。それに加え、中央教育審議会では教員の資質能力の向上のための教員養成システムにおける修士レベル化が検討されるなど、これらに対応するための体系的な教員養成カリキュラムの編成及び専門科目の体系化、また、それを



可能とする大学教員養成が喫緊の課題となっている。

共同教科開発学専攻はこうした背景を受けて設置が検討されてきた。専攻名称ともなっている「教科開発学」は、教科専門・教科教育・教職専門の専門性の枠を越えて、子どもたちを取り巻く環境を視野に入れ、教科との関わりの中で学校教育が抱える複雑・多様化した諸課題に対応した研究を遂行していくもので、教科専門と教科教育を融合・発展させた教科学と、教職専門を発展させた教育環境学から構成される。

本共同専攻は愛知教育大学、静岡大学それぞれの大学院教育学研究科に設置されることとなる。

それぞれの大学の特色を活かした共同教育課程を組み、同一のカリキュラムで進めていく。現職教員でも休職することなく講義や研究指導を受けられるよう、基本的に土曜日、日曜日、夏休みなどの長期休暇を利用して講義・指導が行われる。開設に向け、今後は、11 月以降に学生募集要項を公表、来年 2 月上旬に出願受付、2 月中～下旬に入学試験・合格発表というスケジュールで準備を進めていく。

(総務課長 濱田泰栄)

パリス校児童が本学訪問(10/26)

附属岡崎小学校と交流のあるアメリカ・パリス校の児童 20 人が 10 月 26 日(水)、本学を訪れ、松田正久学長を表敬訪問した。

パリス校は本学の協定校、アメリカ・ボールステイト大学の附属校として、附属岡崎小と一年毎に互いの学校を訪問する交流を行っている。今年は、パリス校の児童たちが 21 日(金)～28 日(金)の日程で来日し、附属岡崎小の児童宅にホームステイしながら、同校児童との交流や社会見学など実施。



昼前にバスで到着した児童たちは、まず学食で食事。その後、大学会館で空手部、茶道部の学生たちの案内で日本文化をちょっぴり体験。空手の模範演技が披露されると、その迫力に驚いた様子を見せたが、防具を着けて蹴り技にも挑戦。元気いっぱい、部員たちと“対決”した。和室では赤い毛せんの上に座り、お茶のお点前を見学。部員からお菓子の食べ方や抹茶の飲み方を教わり、初めての味に戸惑った表情を浮かべながらも、飲み干すと「おいしい」と笑顔で感想を口にした。



学長室に松田学長を訪ねた児童たちは、日本の学校や岡崎城などを見学した感想を話し、しばし歓談。松田学長にお土産の品を手渡し、最後に本部等前で記念撮影。手を振って、大学を後にした。

お知らせ・報告・投稿

アジア教育大学ネットワーク会議に参加(報告)

2011 年 10 月 9 日(日)から 10 月 12 日(水)の日程で、ハノイ教育大学において国際会議、アジア教育大学ネットワーク会議(Education University Network in Asia:Borderless Teacher Education.)が開催されました。国際会議で日本の教員養成改革の動向に関する報告を行い、ハノイ教育大学創立 60 周年記念式典で祝辞を述べる本学の松田正久学長に随行したので、行程の概要を報告します。

到着した 9 日は、夕食を囲みながら、香港、韓国、日本、ベトナムの研究者・教員が教育の動向等について意見交換しました。



翌 10 日は、ベトナム教育大学の会議場において、研究会議が開催。本会議では、ハノイ教育大学学長の挨拶に続いて、まず同大教授の Dihn Quan Thu 氏からベトナムの教育改革についての報告があり、ベトナムの教育の文化的土台について紀元前まで遡りつつ、とりわけ 1976 年以降の改革動向について説明されました。現在のベトナムでは、急激な圧力として、(1) 学習要求の増大、規模の拡大 (2) 社会的・経済的発展のための人的資源の要求が強まり、質と効率化を生み出し (3) 人的資源、条件、経営のミスマ

ッチが、政策や教育行政の革新を要求している状況にあり、それに適合する形で、教員養成・研修のカリキュラム、方法、マネジメント・システムを改善し、社会化を強めていく方向で解決が探られているということでした。経済、文化、その他諸活動の国際的な統合過程が、教員養成を地域的・国際的な基準に適合させる機会になるととらえているようです。

続いて、松田学長から、日本の教員養成改革動向についての報告がありました。まず、日本の幼稚園、小、中、高校、特別支援学校の教員の数や、教員の年齢構成、日本の教員養成の原則（大学における教員養成・開放制）、教員免許取得のために必要な単位数、教員免許を発行している国公立別の大学数、日本の教員免許取得者数と教員採用数等についての概要説明、教員養成の長期化（5 ないし 6 年化）等の動向説明がありました。報告後、不登校などに対するホーム・エデュケーションに対する教育行政の姿勢などに関する質問がありました。



さらに、中国の朴成日氏から中国の大学における教員養成のきわめて体系的なカリキュラム改革、Noel Geoghegan 氏からオーストラリアの教員養成改革、ハノイ教育大学で地理学の教鞭をとるアメリカ人 Gail Ludwig 氏から教員が国際的な経験を持つ重要性について、韓国の Okhwa Lee 氏から ICT の発展にともなう教育 3.0 段階にふさわしい教員養成について、それぞれ報告がありました。活発な討論が行われましたが、教員養成改革だけでなく、教員の待遇改善が教育の質向上に有効であるという意見が出されていました。



アジア諸国の教員養成改革は、すでに地球市民的な子どもを育てるのにふさわしい教員のあり方という視点から教員養成・研修の方向が探られており、日本は大きく遅れをとっているのではないかとやや心配になるような会議でした。

11 日は、ハノイ教育大学の創立 60 周年記念式典でした。朝から強い日差しが照りつけ、猛暑の中、人工芝が敷かれた競技場の観客席から式典を観覧しました。大学の教員、学生、院生や OB・OG ら 1000 人をはるかに



を超える参加で、学部ごとの御輿を担いでの行進あり、演武あり、歌あり、踊りありの盛大な式典が挙行されました。松田学長が来賓の一人として祝辞を述べました。この式典では、学生たちが自らの特技を活かし創意工夫を持って式典を成功させようと積極的に参加している姿が印象的で、自分たちが大学や社会の担い手なのだという自覚が感じられ、少しくらやましい感じがしました。

（学校教育講座 藤井啓之）

経済誌で本学が上位にランキング(報告)

『週刊 東洋経済』（東洋経済新報社）2011.10/22 号は、「2011 本当に強い大学」の特集を掲載しており、「2011 日本の大学 TOP100」の 87 位に愛知教育大学があがっております。教育大学で TOP100 に入っているのは本学だけです。就職率、教育研究充実度などが評価された結果です。

同じ記事の「就職率ランキング」の「文系ベスト 100」では本学は就職率 90.4%で 46 位（上越教育大学が 15 位、鳴門教育大学が 35 位）。同じく「中部の文系」では本学が 20 位にあがっています。

また同誌の「2011 年版大学四季報」では国立大学 60 大学に本学が取り上げられ、「収入増（前期比）」（筆者注記：経常収益の前年比増減率）、「コスト削減」でプラス評価を受けています。

『エコノミスト ザ・名古屋』（毎日新聞社）2011 臨時増刊 10/31 号も、「2011 春 中部地

区 61 大学の主な就職先」という特集を組んでおり、愛知教育大学は「卒業者数 887 人 就職決定者数 731 人」の「90.4%」で掲載されています（同誌、79 ページ）。また、「中部に根づくハイレベルの独自教育」と題する井沢秀氏による解説文では、「愛知教育大 全国トップの教員養育力」として本学の取組を評価する記事が書かれています。

話題は異なりますが、『中日新聞』2011. 10. 28 朝刊によりますと、全国の「エコ大学ランキング」で「昨年の四十六位から六位に躍進した愛知教育大」というリード文で、本学が紹介されています（第 17 面、西三河版）。

いずれも、本学の学生・教職員の皆様がそれぞれの役割を日ごろから誠実にこつこつとこなし、課題に応じて積極的に取り組んでいただいている成果であると受け止めています。そのお礼も込めて、ここにご紹介させていただきました。（総務担当理事 折出健二）

本学がエコ大学ランキングで上位ランクイン(報告)

本学はこの度、全国青年環境連盟（エコ・リーグ）が主催する第 3 回エコ大学ランキング「エネルギー・CO2 部門」で全国（全 167 校中）第 1 位、「国立大学部門」で第 3 位、総合第 6 位になりました。

エコ大学ランキングは大学内での環境・温暖化対策を推進するために 2009 年から実施されている表彰制度で、エネルギー使用量、自然エネルギー導入量、環境対策実施率、組織体制、環境教育・学生との連携などに関する分野 204 項目についてアンケート調査を行い、評価。本学は、太陽光発電の導入やエネルギー削減などが高く評価され、「エネルギー・CO2 部門」で第 1 位になりました。

また、「環境重視型エコキャンパス」の創造を目指し、第 2 期中期目標・中期計画の中で、施設設備の整備・活用等に関する目標を達成するための措置として、「環境報告書に温室効果ガスの削減目標を記載し、その達成に向けて自然エネルギーの活用等全学的な省エネルギー化を進める」とし、さらに 2011 年度には、電気使用量 10%削減（2010 年度比）目標及びアクションプランを発表して様々な対策に取り組んできました。その結果、2010 年度は記録的な猛暑であったにもかかわらず過去最も少ない総エネルギー投入量に抑えることができました。加えて、2010 年度に使用した全電力のうち約 3%を学内の太陽光発電でまかなうなど、創エネにも積極的に取り組んでいます。（施設課副課長 加藤正俊）

催しもの案内

◆第 5 回科学・ものづくりフェスタ

11 月 5 日（土）10：00～16：00（天文台は 20：00 まで） 入場無料

第一共通棟ほか

対象：小・中学生、高校生、教員、一般

「おもしろ科学」「ものづくり教室」「天文台一般公開」その他イベント多数。

ランチタイム・レクチャー（12：30～）は児玉康一教授が「宇宙線と放射能」をテーマに講演。

問い合わせ：教育創造開発機構 科学・ものづくり教育推進センター

Tel 0 5 6 6 ・ 2 6 ・ 2 6 5 3（平日のみ）

E-mail:waku2@m.auecc.aichi-edu.ac.jp

URL <http://www.step.aichi-edu.ac.jp>

◆書友会成果展

11 月 7 日（月）～13 日日 入場無料

附属図書館 2 階 アイ♥スペース

国語教育・書道専攻の学生を中心とした書道の研究会「書友会」による書道作品展。

開館時間は附属図書館 HP を参照。

URL <http://www.auelib.aichi-edu.ac.jp>

◆秋のランチコンサート

11月9日(水) 12:30~13:00 入場無料

附属図書館2階 アイ♥スペース

出演は音楽科の大学院生。詳細は当日、プログラムを配布。

◆愛知教育大学 地域連携フォーラム 2011

11月12日(土) 13:00~16:30 入場無料

刈谷市総合文化センター 401, 402 室

テーマ: 大学と地域で創造する「地域文化づくり」一言語・コミュニケーション交流の活性化に向けて

問い合わせ: 教育創造開発機構運営課 TEL 0566・26・2129

◆「市川房枝 没後 30 周年記念企画展」

11月17日(木)~12月20日(火) *11月26日(土) 27日(日)は休館

附属図書館2階 アイ♥スペース 入場無料

愛知女子師範学校(現 愛知教育大学)を卒業し、男女共同参画に偉大な功績を残した市川房枝さんの生涯を、パネル・蔵書・遺品を展示して紹介。

問い合わせ: 情報図書課 TEL 0566・26・2683/2687

<http://www.auelib.aichi-edu.ac.jp/>

◆第4回リベラル・アーツ Edu セミナー

11月17日(木) 16:40~18:40

大学会館2階 中集会室

対象: 本学教職員、理事

本学 LA プロジェクト主催。リベラル教育の理念やその実践の方法について意見交換する。帝京大学経済学部教授・松井範惇氏を講師に迎え「リベラル教育の理念と実践—私の経験から—」をテーマに講演。

問い合わせ: LA プロジェクト担当 TEL 0566・26・2718

◆教育臨床総合センター講演会「ろう者と聴者のこころのかけはし」

11月19日(土) 13:00~16:45 入場無料

第二共通棟3階 431 教室

どなたでも参加可能。第1部は映画上演と監督の小講演「珈琲とエンピツ」(本学卒業生で映像作家の今村彩子氏)。第2部は神戸大学発達科学部教授・河崎佳子氏による基調講演「きこえない人々の心に触れて」。第3部は今村氏と河崎氏による対談「こころのふれあい」。

問い合わせ: 臨床総合センター 神野正市

メール: sjinno@office.aichi-edu.ac.jp

Fax: 0566・26・2711

◆秋祭

11月19日(土)、20日(日)

第一共通棟などキャンパス一帯

テーマは「燃えろ秋祭 深めろ絆 この秋 嵐を巻き起こせ」。出店、ステージ、ミニゲーム、スポ祭など。また、今年は目玉企画の「借り物競走」「mission-暗号解読」も。詳細は秋祭 HP を参照。

URL <http://www.aue-festival.aichi-edu.ac.jp/akisai/atop.html>

◆愛知教育大学音楽科有志団体「ミュリム」ミュージカル発表会

11月20日(日) 17:00 会場、17:30 開演 入場無料

大府市勤労文化会館 もちのきホール
音楽科 1、2 年生有志によるミュージカル発表会。演目は「夢から醒めた夢」
問い合わせ：「ミュリム」代表・野々山
メール：muream_obu@yahoo.co.jp

編集後記

11 月に入り、キャンパスの紅葉が鮮やかになってきました。そんな秋の深まりとともに、学内外でのイベントも盛んになってきています。「トピックス」や「催し物案内」で主だったイベントを掲載していますので、どんどん参加してください。また、「こんな催しがあります」「こんなイベントをしました」という情報は、どうぞ下記に提供してください。皆さんが、情熱とエネルギーを注ぎ、貴重な時間をさいて行うそのイベントを AUE News で、ぜひ紹介させてください。（K）

投稿のお願い

学内外の出来事（教育・研究・地域連携・国際交流・学内事業など）に関するニュースの提供をお待ちしております。

メール：kouhou@m.auecc.aichi-edu.ac.jp 編集責任者：総務担当理事 折出 健二